

行事予定

2025(令和7)年5月～8月

【テーマ展示／相互貸借特集展示(小規模展示)】

———

2025年4月21日(月)～8月24日(日)

2025年度サテライト展示Ⅰ

「江戸時代の長崎、覗いてみた!—長崎見聞録の世界—」

[場所]南島原市原城図書館(長崎県南島原市)

2025年5月27日(火)～9月28日(日)

2025年度サテライト展示Ⅱ

「西洋の視線—地図にみる世界観と異境認識—」

[場所]國學院大學博物館(東京都渋谷区)

【イベント】

———

2025年5月24日(土)

せいなんワークショップ

「くずし字でお名前キーホルダーを作ろう!」

[場所]西南コミュニティセンター2階会議室

※定員20名/事前申込制

2025年8月5日(火)・6日(水)

せいなんワークショップ

「テラコッタねんどではにわを作ろう!」

[場所]西南学院大学1号館1-206教室

※定員36名/事前申込制

※西南学院大学博物館は、2025年4月より一時閉館中です。

再開館の時期は未定です。

行事予定は日程、内容等が変更する場合がございます。

各イベントの詳細につきましては博物館ホームページをご確認ください。



西南学院大学博物館

SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

〒814-8511 福岡市早良区西新6丁目2-92

(西南コミュニティーセンター内)

TEL 092-823-4785 FAX 092-823-4786(博物館事務室)

ホームページ <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum>

【西南学院大学博物館 一時閉館のご案内】

———

西南学院大学博物館(ドージャー記念館)は、大規模地震が発生した場合に、館内の安全を十分に確保できない状態であるため、来館者の皆様及び博物館スタッフの安全を最優先に考慮し、2025年4月から耐震化の対応が十分に確認できるまでの間、一時閉館しております。最新の情報は、公式ホームページにてご確認ください。



Youtube 西南学院大学博物館



@seinan_museum



@seinan_museum

旧館長 退任のご挨拶

———

私は2023年4月1日から2025年3月31日までの2年間、博物館長を務めさせていただきました。この2年間、学芸員、学芸研究員、学芸調査員、博物館事務室職員など皆さんのおかげで、館長としての業務を遂行することができ、本当に感謝しています。また通常業務以外に、大規模地震が起きた場合の対応に関して、博物館機能の学内移転やその際の展示をどうするかなどの課題が持ち上がり、大学との協議に腐心した2年間でもありました。この件はまだ協議が継続されますので、松原知生新館長のご尽力に託すことになります。どうか、本学の博物館にとりまして、よりよい方向性が見つかることを切に願っています。

西南学院大学博物館
前館長 片山 隆裕

新館長 就任のご挨拶

———

このたび館長に就任しました松原です。中世・ルネサンス期イタリアの宗教画を中心に研究しています。私が本学に赴任したのはちょうど20年前の2005年、当館の開館は2006年ですので、教員としての私の歩みは、この博物館の歴史とほぼ重なっていることになります。これから一緒に歩んでいこうと思っていた矢先、私の館長就任と同時に博物館は一時的に閉館することになり、まさかのすれ違いと相成りました。とはいえ、「ハコ」としての博物館はいったん閉まりますが、一時閉館中もさまざまなかたちで活動を続けてまいりますので、みなさまの温かいご支援とご指導を、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

西南学院大学博物館
館長 松原 知生

編集後記

———

2025年4月から一時閉館ということで、西南学院大学博物館内での展示活動はしばらくお休みです。2006年の開館から約19年、お越しいただいた約18万人の皆様、ありがとうございました。一時閉館期間を新しいスタート地点と捉え、スタッフ一同邁進してまいります。パワーアップして戻ってこられるよう、これからも応援よろしくお願いいたします。

学芸研究員 鬼束 芽依

西南学院大学博物館

NEWS

SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

Vol.

53

2025.05

所蔵品紹介「染付十字文鉢」

19世紀後半頃／肥前／染付、型紙摺、鉢／口径17.5cm、高さ5.8cm、底径11.0cm

見込みに十字文様が施された鉢です。五七桐文と思われる文様が四方に配置されており、中央に十字文様が見えます。桐文は、17世紀後半頃から多く用いられるようになり、18世紀にはコンニャク印判と呼ばれる印刷装飾技法による桐文がよく見られるようになります。高台は18世紀後半以降に流行する蛇の目凹型高台です。高台内を蛇の目釉剥ぎし、高台内中央を丸くくぼませるのが特徴で、その形から蛇の目凹型高台と呼ばれています。本資料は酸化コバルトを使用し、型紙摺りの技法が使用されているため、19世紀後半頃に生産されたものと思われます。

茶碗や鉢、茶道具などの器物に十字の意匠が施された例は多く見られ、古田織部美術館(京都市)や福岡県立美術館久我コレクションなどに収蔵されています。茶の湯の作法とミサにはいくつか類似する点が見られることから、キリスト教のミサから影響を受けたという説があります。ですが、わび茶を大成させた千利休やその家族がキリスト教に入信していたとする史料は一切残されておらず、茶の湯がキリスト教の影響を受けていた可能性は低いと考えられています。

大正時代から昭和時代にかけて、織部灯籠や茶の湯とキリスト教が関連しているという俗説が流布していました。本資料のような十字文様が施された陶磁器は、そのような時代背景の中で20世紀に多数製作されたものと思われます。十字文様は、キリスト教信仰と結び付けられやすいですが、十字の記号自体は、キリスト教と無関係に全世界に広く分布し、普及していました。そのため、実際にキリシタンが使用していたことを裏付ける史料や状況がなければ、キリシタン遺物として断定することはできません。

学芸調査員 馬場 紀聡

<主要参考文献>
九州近世陶磁学会事務局編 2000『九州陶磁の編年:九州近世陶磁学会10周年記念』九州近世陶磁学会
古田織部美術館編 2018『キリシタンと茶の湯』古田織部美術館
松田毅一 1969『キリシタン:史実と美術』淡交社



聖書植物だより

聖書植物園で見ごろの植物をご紹介します

パピルスは、籠や履物などの生活雑貨や、船の帆・網など様々な用途で活用されてきました。また、人類史上最古の紙の原料で、paperの語源でもあります。7月から9月に見ごろを迎え、花軸を伸ばした涼しげな姿を見せてくれます。『出エジプト記』の冒頭では、赤子であったモーセが入れられた籠として登場します。

パピルスが見ごろを迎える時と同じころ、イナゴマメのさやは黒くなり食べごろを迎えます。イナゴマメはイエスの「放蕩息子のたとえ話」(ルカ福音書15:11-32)で豚の餌として登場します。古代エジプトでは糖分として人間も食べていました。

パピルスは西南学院大学2号館裏の温室、いなご豆は大学博物館(ドージャー記念館)前にて育成しております。ぜひきれいな姿をお楽しみください。

学芸調査員 栗田 りな
松尾 優里



カミヤツリ／パピルス
花期：7～9月 聖書箇所：出エジプト記2:1-3



イナゴマメ／いなご豆
花期：8～11月 聖書箇所：ルカ福音書15:14-16節

連携展示紹介

2025年度 西南学院大学博物館サテライト展示 I

西洋の視線—地図にみる世界観と異境認識—

会期／2025年5月27日(火)～9月28日(日)

会場／國學院大學博物館 考古展示室(東京都渋谷区東4-10-20)

今回の國學院大學博物館でのサテライト展示は、「西洋の視線—地図にみる世界観と異境認識—」というテーマでおこないます。古代より製作された地図には、地理情報だけでなく、人々の世界観や興味関心が映し出されてきました。本展示では、西洋で製作された地図を展示し、地図に現れたキリスト教の影響やアジア・日本の形について紹介いたします。各時代の地図を通した、西洋の世界観や異境へのまなざしを知っていただくと幸いです。



『中国図説』より「東アジアの地図を持つイエズス会宣教師たち」
1667年/アムステルダム(オランダ)/アタナシウス・キルヒャー/紙に銅板/37.5×24.5cm

ワークショップだより

2025年3月8日(土)「聖書植物でしおりづくり」を開催しました

2025年3月8日(土)に、せいなんワークショップ「聖書植物でしおりづくり」を実施しました。今回は聖書植物園のミニツアーをおこなった後、聖書植物の押し花を用いて、しおりを制作しました。実際に見て・触って・嗅いで聖書植物と触れ合うことで、親しみを持っていただけたのではないかと思います。参加者の方々からは、「ふだんキャンパス内で見かける植物について、詳しい話が聞けたので、大変勉強になりました。制作したしおりは大切に使用していきたいです。」「聖書にまつわる植物がこれほどあることを全く知らなかったのでもって学びになりました。」などの声をいただきました。西南学院大学博物館は一時閉館となりますが、ワークショップは今後も開催します。これからも様々な企画を考えていきますので、楽しんでいただけたら幸いです。皆様のご参加をお待ちしております。

学芸調査員 村田 早紀



〔博物館通信〕 2024年10月から2025年3月にかけて行われた博物館活動の中からいくつかをご紹介します。

2024年10月から12月にかけて開催した「知のアトラス—宇宙をめぐる教会と科学の歴史」では、学内外問わず多くの方々が来館し、X(旧Twitter)をはじめとするSNS上でも大きな反響をいただきました。テーマ展示「みて！—工房まる、田村のアトリエ作品展—」では、工房まるの方々の多彩な作品が集まり、来館された方々も博物館スタッフもあたたかい気持ちを感じられる展示となりました。西南学院大学博物館(ドージャー記念館)は2025年4月から一時閉館いたしますが、今後とも、西南学院大学博物館をよろしく願いいたします。

学芸調査員 大番 島

- 2024年6月11日(火)～10月15日(火) 國學院大學博物館 相互貸借特集展示「アイヌ民族の交易と工芸」を開催しました。
- 2024年6月26日(水)～10月15日(火) ニュース展示として、アタナシウス・キルヒャー『地下世界』より「太陽図」を展示しました。
- 2024年7月11日(木)～10月15日(火) 令和6年度南島原市・西南学院大学博物館 相互貸借展示 I「綴る—出征兵士の手紙—」を開催しました。
- 2024年10月21日(月)～12月14日(土) 特別展「知のアトラス—宇宙をめぐる教会と科学の歴史」を開催しました。
特別展関連展示「ここまでわかっていた!? 江戸の天文学」を開催しました。
- 2024年10月21日(月)～2025年3月6日(木) 南島原市による相互貸借展示「モノ語る—原城跡発掘調査展—」を開催しました。
國學院大學博物館による相互貸借特集展示「蠟燭と流言の夜—折口信夫が見た関東大震災—」を開催しました。
- 2024年11月9日(土) せいなんワークショップ「プラネタリウムづくり」を実施しました。
- 2024年12月21日(土) せいなんワークショップ「カリグラフィ—クリスマスカードづくり—」を実施しました。
- 2025年1月24日(金)～3月6日(木) テーマ展示「みて！—工房まる、田村のアトリエ作品展—」を開催しました。
- 2025年3月8日(土) せいなんワークショップ「聖書植物でしおりづくり」を実施しました。

